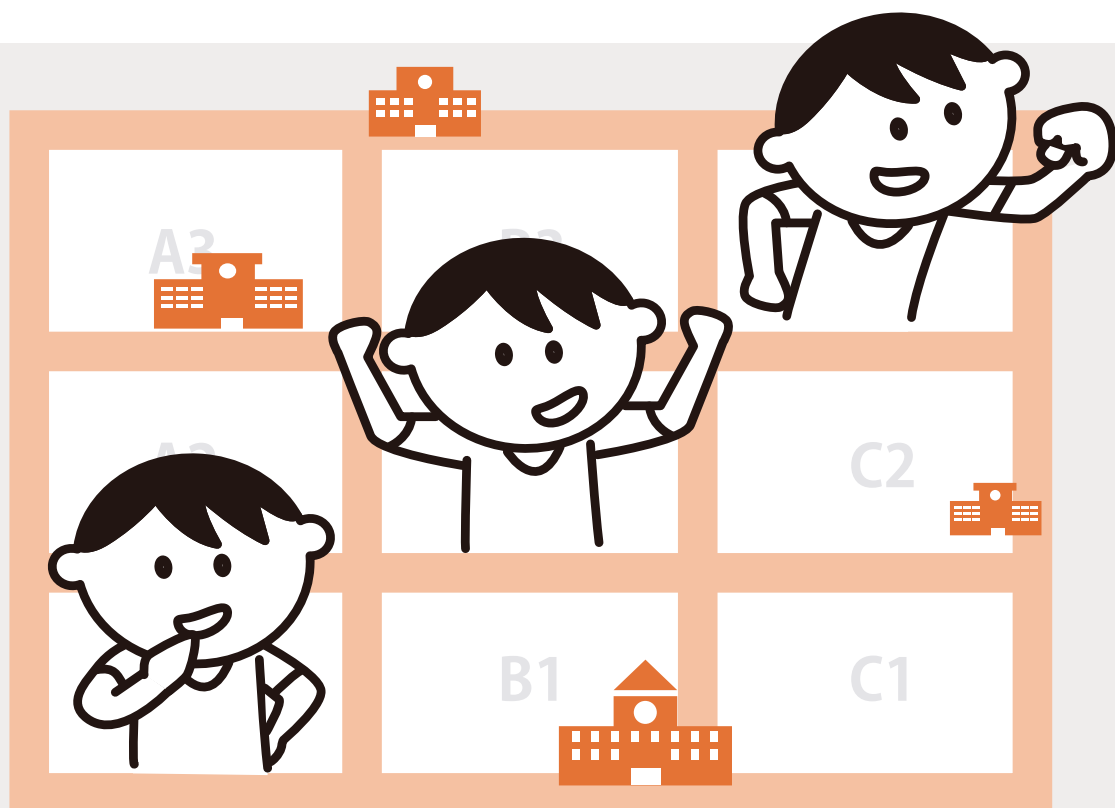




「思考コード」で、 自己肯定感が高まる 学校選びを

AI やメタバースの進歩で急速に変化する生活スタイル。
学校選びにも、未来を見据えた新しい基準が必要です。

首都圏模試センターEPPリーダー G&J link プロデューサー 立石哲也

聞き手：立石 哲也 プロフィール

1975 年生まれ。市川学園、中央大学卒業。教育関係の会社に就職。2012 年、36 歳で北赤羽に個太郎塾を開業。2021 年 5 月より浅草教室の運営も手掛ける。教室経営の傍ら、「子どもたちに幅広い選択肢を！」という想いから、首都圏模試で個別指導EPPリーダーとして活動をしている。



不確定な時代の 学校選びの基準とは？

現在、日本では少子化問題、環境問題、エネルギー問題、国際情勢などの課題が山積みです。また、AIやメタバースの出現により人の生活も大きく変化しています。ファミリーレストランではAIの配膳ロボットが導入されるケースも珍しくなく、学習塾ではAIタブレットが配布され生徒は当たり前のように活用しています。そのような生活スタイルの中では、生き方、考え方を更新することが求められます。これは受験の世界も同様です。偏差値の高い学校、大学進学実績が高い学校を選択して、合格できれば安泰だという認識を変える必要があります。大学入試改革により選抜方法も大きく変わり、一般受験での入学者は、入学者全体の約50%です。このような不確定な時代で活躍するには、自分の可能性を伸ばしてくれる学校を選択することが、有効な手段の一つと言えます。

私は、保護者の方と志望校についてお話する機会があります。その際に、「最低、偏差値55以上の学校に進学させたい」とか「父親が〇〇大学だから、その大学に行かせたい」というようなお話をされる保護者の方がいらっしゃいます。本命校の教育方針とお子さまの性格を考慮して学校選択をしますが、併願校に関しては、お子さまの偏差値とのバランスや自宅からのアクセスで受験する場合があります。併願校に進学した受験生の保護者の中には、「こんなはずじゃなかった」と後悔する方が少なからずいらっしゃいます。また、受験生本人も合格したらゴールだと思いつ込み、入学後、燃え尽き症候群に陥る場合もあります。これは、保護者が偏差値という物差しで学校を判断し、受験生も中学受験が終わったら勉強から解放されると勘違いするケースです。これこそ、中学受験の弊害です。そうならないために、学校選びのための「思考コード」を作成しました。現在、みなさんが志望している学校を、この思考コードに当てはめて参考にいただければと思います。

お子さんの特性や将来性を視野に入れた「思考コード」

思考コードの横軸にあるAは「情報、知識から選んだ志望校選び」になります。分かりやすく言うと、可視化できる志望校選択です。A1は、「偏差値や、自宅から学校までのアクセスから志望校」を選択する。A2は、「大学進学実績や口コミサイトからの情報等から志望校」を選択する。A3は、「探究授業や1年間の留学等の可視化できる学校の取り組みから志望校」を選択する。そのような分類となります。

思考コードBは、「自分に合う学校から考えた志望校選び」になります。学校の方針や進路指導、部活体験等から保護者、受験生が共感した志望校選択です。B1は、「学校説明会や部活体験会等で共感した志望校」を選択する。B2は、「建学の精神に共感し、自分が興味のある取り組みを実施している志望校」を選択する。B3は、「日本の大学のみならず、海外の大学進学も視野に入れた進学指導をしている、生徒たちに大学への進路指導だけでなく、生徒たちの将来までも視野に入れたキャリアデザインを取り入れている志望校」を選択する。そのような分類となります。

思考コードCは、「未来の自分から考えた志望校選び」です。C1は、「学校生活において自分の可能性が伸ばせそうな志望校」を選択する。C2は、「将来の自分が得意分野を活かして活躍できそうな志望校」を選択する。C3は、「現在、抱えている社会問題の解決に貢献するために、新しい技術、サービスを展開できそうな志望校」を選択する。これらは、自分の将来性、特性が学校生活に適っているかどうかを当てはめる内容です。

		情報や知識から考えた 高校選び	自分に合う学校から考えた 高校選び	未来の自分から考えた 高校選び	
3	3 変容 様々な角度から情報を集め、総合的にまとめた情報	学校の理念や歴史、新しい取り組み、学校の長所・短所を理解しながら、世の中の流れも踏まえて総合的に選んだ学校	学校の授業や学習サポート、さまざまなプログラムなど学びの環境を自分で研究して、大学の学部や就職まで考えた学校	未来の自分がイノベーションを起こせる学びの環境がある学校	将来の仕事まで考えた高校選び
2	2 複雑 自ら調べたり、聞いたり、体験した情報	受験情報誌の情報や大学合格実績、口コミなど様々な知識や情報を確認して選んだ学校	実際に学校に行って校風や、在校生、先生、教室、施設などを確認し、自分に合うか考えた学校	未来の自分が活躍するための学びの環境がある学校	学校生活や大学まで考えた高校選び
1	1 単純 身の回りの情報	友達や担任の先生に薦められた学校や、偏差値・内申から選んだ学校	学校説明会に参加したり、入りたい部活や興味あることから行きたいと思った学校	未来の自分を想像できる学びの環境がある学校	自分の知っている学校からの高校選び
		A 知識・理解思考	B 論理的思考	C 創造的思考	

(考案) 首都圏模試センター EPP リーダー G&J link プロデューサー 立石哲也

画期的な取り組みをする学校を「思考コード」のB軸・C軸で分析

ここで、2つの学校の取り組みを思考コードに当てはめてみたいと思います。

1校目は、熊本県立高森高校になります。同校は、熊本県教育委員会と漫画出版社、高森町と4者協定結び、日本で初めて公立高校にマンガ学科を創設しました。私自身も取材に行かせてもらいましたが、熊本県外からも生徒を受け入れていることや、生徒自身がやりたいことを学ぼうとして入学してきているので、他教科にもよい影響を与えているということでした。

同校の思考コードを参照しましょう。A 1は、全国から応募が出来る環境、図書館には豊富なマンガ本があり、校舎には有名漫画家のイラストが多数飾ってあります。A2はWEBやテレビ、マスコミ関連から史上初の「マンガ科」創設と発信され、全国の漫画家志望の生徒は興味を持ちました。A 3は通学できない生徒には、



「思考コード」で、自己肯定感が高まる学校選びを

高森高等学校 思考コード

	情報知識から考えた 学校選び	自分に合う学校から選んだ 学校選び	未来の自分から考えた 学校選び
3	高森高校、高森町、漫画専門 出版社熊本教育委員会が4 者協定を結び、全面サポート 体制に安心と同時に期待をし た学校選択。	有名漫画家やマンガ専門雑 誌編集長から学びを得て、 同じ目的を持った仲間と一 緒に成長できる環境。	日本の「マンガ」を通し て世界中に発信できる人 材になる。
2	全国初の公立高校の「マンガ 学科」というセンセーショナ ルな取り組みに魅了される。	デッサン専用の大型グラフ ィック機器を始め、漫画を 描くための設備が十分に添 えられている。	マンガ・アニメ業界で自 分が活躍できることが出 来る環境。
1	自分の好きな「マンガ」に囲 まれた環境で過ごせることに 魅力を感じる。 住居の制限がなく、どの地域 からも志願が出来ることに魅 力を感じる。	自分の好きな「マンガ」を 3年間学び続けることが出 来る環境に対しての充実 感。	高校在学中にマンガコン クールに出品し、マンガ 家を本格的に目指す。

高森町が運営している寮に住むことが出来、カウンセラーの方も常勤しています。

また、通学できる生徒には、交通費を補助しています。

B軸に目を向けると、B1では、自分が得意、好きなマンガを3年間学ぶことが出来る環境、B2では、マンガを描くために必要な機材、場所を有効活用して、好きなマンガを描くことに没頭できる環境。B3では、マンガ家や編集者の方々から学ぶことで刺激を受けることが出来る環境となります。

C軸を見てみます。C1では、高校在学中にマンガコンクールに出品して自分の腕前を試すことができます。C2では、将来、マンガ家やアニメーターなどの自分が得意な分野の職業に就けることが想像できます。最後のC3は、「キャプテン翼」や「スラムダンク」等、世界の人々に影響を及ぼした作品は数知れず存在し、マンガは日本が誇る文化の一つです。世界に影響をあたえる人材を輩出する可能性は大いにあります。



「思考コード」で、
自己肯定感が高まる
学校選びを

成立学園中学・高等学校 思考コード

3	「見える学力」を養って いく成立メゾットを確立して いる。	「アースプロジェクト」、「ナ ショジオ学習」を活用して各 地域に足を運び「地方創生」 に携わる。	「アースプロジェクト」、「ナ ショジオ学習」を通して、 世界規模の視点を持ち世界 に貢献できる人材になる。
2	少人数クラスならではの生 徒の性格、特徴に合わせた きめ細かい指導	日経ナシヨナルジオグラ フィック社の協力のもと、地 球上の課題の多岐にわたる テーマを選び、調査、分析考 察をし、発表する。	学校生活で培った経験を基 に、その分野においてスペ シャリストになれる環境が ある。
1	ターミナル駅赤羽駅から徒 歩で通学できるアクセスの 良さ。	アースプロジェクトを通し て、水田学習や海のフィール ドワークなど様々な体験がで きる。	「アスリートクラス」、「探究 クラス」等の多彩なコース が準備され、各分野で活躍 できる環境を整えている。

もう一つ参考にする学校は東京都北区にある成立学園中学・高等学校です。成

立学園中学・高等学校はパンフレット、WEBに「見えない学力」と謳っています。

その「見えない学力」について、以前、先生に伺ったことがあります。「見えない学力」とは、数字では測れない学力を意味しているそうです。課題を自分で見つけ、考え、意思表示をし、突き詰めていくことを大切にしています。学校の考えとして、学力を氷山に例えると、海面の下の部分のように潜在的な力をつけないと海上に浮かぶ部分の「見える学力」はつかないという考えです。

志望校選択思考コードに目を移すと、A1はターミナル駅赤羽駅という立地から、広範囲で通学できます。A2は、中学校は2クラス少人数体制を採用しており、一人一人に行き届いた指導をする。A3は基礎学力を重視して、スモールステップを踏みながら、「見える学力」を養っていく成立メゾットを確立しています。

B軸に目を向けると、B1は「アースプロジェクト」を通じて、水田学習、海のフィールドワークなど様々な体験が出来ます。B2は日経ナショナルジオグラフィック社協力のもと、地球上に起きている課題からテーマを選び、調査、分析、考察し、発表するという斬新な「ナショジオ学習」を展開しています。B3は、「アースプロジェ

A3

クト」、「ナショジオ学習」を活用して、日本の各地域に訪れ、「地方創生」のお手伝いをしています。「アースプロジェクト」は、中学2年時に「海のフィールドワーク」というプログラムがあり、海洋汚染に直面して、海洋系の大学に進学する生徒もいたとの事です。また、中学3年生になると「アースツアー」と称して、屋久島と種子島に行きます。屋久島の屋久杉を見て、種子島の宇宙センターを見学するという自然と科学の両極を見せる体験をします。

「ナショジオ学習」については、SDGsが発表される前から環境問題、社会問題の解決に向けて取り組んでいました。ナショナルジオグラフィック社の記事から気になるテーマを選択して、調査、分析、考察、発表をしています。発表する際には、実際にナショナルジオグラフィック社の社員が来校して、アドバイスをもらうそうです。

最後に、「アースプロジェクト」、「ナショジオ学習」の経験を活かして、各地域を訪れて「地方創生」にボランティアとして携わります。この経験が、今後、大学、社会に出てからも活躍できる土壌となるのです。

C1では、高校になると「アスリートクラス」、「探究クラス」を始め5つのコースがあるので、多彩な分野で活躍できる環境があります。C2は学校生活で培った経験をもとにその分野のスペシャリストで活躍できる環境です。最後にC3ですが、「アースプロジェクト」、「ナショジオ学習」の経験を基に、グローバルな視点を持つことができます。世界に貢献できる人材になるための環境と言えるでしょうか。

自己肯定感を高め、 偏差値にこだわり過ぎないチャレンジを

今回は2校を紹介させていただきました。高森高校はC軸を中心とした志望校選択、成立学園は、B軸を中心とした志望校選択と言えます。2校とも偏差値として捉えたと決して高くはない学校です。しかし、この2校の共通点は、学びを通して、

B3

B2

B1

C3

物事を前向きに捉え、行動力も備わるので、生徒たちの自己肯定感が高くなる学校という点です。この自己肯定感がこの日本社会、グローバル社会に必要なになっていきます。以前、内閣府が発表したデータでは、若者の意識調査で諸外国の若者と比較して日本人の自己肯定感が低いと発表されました。

日本人特有と言われる「謙遜の文化」、「年功序列の仕組み」が大きな要因であると考えられます。「滅相ありません。私なんか〜」、「年上の言う事が絶対だ。先輩の言う事を聞け!」という言葉は、保護者の皆さんも聞いたことがあるフレーズではないでしょうか。そういう習慣が身についている日本人にとって自己肯定感が高くなる環境を作るとはなかなか難しいのかもしれませんが。また、今の教育制度が更に輪をかけています。「〇〇君は偏差値が高い学校に進学したのよ。あなたも頑張りなさい!」などと偏差値で比較し叱咤するケースは少なくありません。公立中学では、先生と面談すると「内申が足りないから、必ず合格できる学校を選択しましょう!」とアドバイスするケースがあります。そもそも内申を決めるのは学校であって、地域差によって内申基準が違う学校も多数あります。その数値を、高校受験では、同じ基準として扱われてしまいます。首都圏だけとって、中学受験をする割合が20%程度なので、少なくとも80%の子どもがこの不合理的な制度に従わなければなりません。このような状況で自己肯定感が上がる環境は望めません。だからこそ、保護者と受験生の皆さんは、偏差値にこだわらない志望校選択する覚悟が必要になってきます。自己肯定感を高めると、自分の長所を理解でき、自信を持って主体的に行動ができ、失敗を恐れずチャレンジができます。更に、他者を尊重することができると言われています。この、不確定な時代に、自ら主体性を持って課題を解決し、自分の長所を理解して、他者と協力して、失敗を恐れずチャレンジする!このサイクルに入ったら、日本にもイノベーションが起こる時代となるでしょう!是非、志望校を選択する際に、思考コードを活用して、何事にも積極的にチャレンジをし、自信を持って取り組んで充実した学校生活を送られることを願っております。



「思考コード」で、
自己肯定感が高まる
学校選びを